

現地で双方の声きく

寺本知事ら水俣視察

水俣病問題をめぐる新日鐵水俣工場の排水処理などを視察のため十一月二、三日水俣市を訪れる国会調査団より一足先に寺本県知事、野沢県水産部長、田中県議会で水俣市役所を訪れた。一行は市



水俣市長室で漁協の説明をきく寺本知事

長等で中村市長、石原助役、伊藤県水俣保健所長から水俣病に関する現在までの資料を受けとり、中村同漁協理事から約二十分間にわたり現地漁民の実情を聞き、直ちに市立病院に収容されている水俣病患者を視察した。そのあと新日鐵工場を訪れ工場側石野、昆両次長らにつきのような質問を行なった。

工場が水俣漁民に補償金を出したことはやはり一部熊大の意見を二応肯定したのではないか、工場が熊大に対して行なった反論は世間が納得していない。浄化装置はどのようなになっているか。鮮魚仲買商の魚が売れなくなつてから問題が大きく発展したと思うが……。

これに対し石野、昆両次長らは八幡（水俣川口）の循環設備の完成によつてさる二十九日から海への排水は完全にストップした。工場が来年三月末完成をめざしている浄化装置は機械などがまだ到着していないが、できるだけ早く完成するよう努力している。ただできることは必ずするが、ものごとには限界があると答えた。

寺本知事はできないことはやれないといわれるが、そういわれると県としては、ことがおさまらなくいとやりかえし、双方微妙な対立感がみられた。補償金が急に増額したことについて

では石原同市助役から「漁協から一昨年二千万円の要求が出されていた」と知事へ説明があった。このあと昆次長から八幡排水をストップする浄化装置などについて図

面説明があつたのち一行は工場側の案内で八幡の循環装置を視察、湯島の現地漁民の声や水俣病患者の家を視察、同夕刻帰郷した。